



# 伊藤とし子



## 6月県議会で一般質問！

### 新型コロナ 自宅死が多すぎます！

今年1月～3月、新型コロナのオミクロン株が猛威を振るい、医療ひっ迫で入院できず、自宅療養を余儀なくされ、亡くなる方も出ました。

自宅死が何人出たのか、県の健康福祉部は公表しません。そこで、千葉県警の「死体取扱い件数」を独自調査。自宅死の実態を、初めて明らかにしました。

### 自宅で亡くなったコロナ陽性者

千葉県警調べ（2022年1月～4月）

	コロナ陽性 死体数	PCR等検査実施時期			発見場所	
		生前	死後	不実施	自宅等	外出先
1月	8	3	5	0	8	0
2月	35	20	11	4	34	1
3月	25	10	15	0	24	1
4月	2	0	2	0	2	0
合計	70	33	33	4	68	2

この表は、自宅  
で亡くなり、  
警察が入った  
ケースのうち、  
PCR陽性が判  
明した70人  
のデータです。

### PCR検査を生前に受けたとは → 二つのケースが考えられます。

- ① PCR陽性となり自宅療養中突然容態が急変し、救急車で病院に運ばれたが心肺停止となり、病院で医師が死亡確認したが、不審な点があるもの。
- ② PCR陽性となり自宅療養中に亡くなっていた（心肺停止状態）。

### PCR検査を死後に受けたとは

自宅で亡くなっているのを発見され警察が呼ばれた後、医師が死亡確認。その後PCR検査を実施し陽性判明したケースです。（現在、警察が扱う遺体はすべてPCR検査を受けます）本人は具合が悪いのにPCR検査も受けられず、医療にもかかれず、自分がコロナにかかったことも分からずに亡くなったと思われます。



### この表から見てくるもの

「生前」に分類された33件ですが、自宅療養中に容態が悪化して病院に運ばれた場合、警察が介入することはほとんどありません。この33件の多くは、具合が急激に悪くなくても救急車も呼ばず、自宅で亡くなったのではないのでしょうか。また、厚労省の調査では、今年1月から3月末までの千葉県の自宅死のうち、8割が70歳以上の高齢者であると判明しています。

### 自宅死が68件もあり、そのうち多くが高齢者の孤独死だったのではないかと？

今後、感染再拡大に備え、一人暮らしの高齢者の見守りを充実させる体制を早急に作るよう、千葉県に求めました。



6月8日の一般質問では、自宅死のデータを議場配付し質疑しました。

### 佐倉市5億3000万円国庫返還 きっかけは県からの1本の電話

佐倉市を揺るがす事件の発端は、2020年3月1日、県からかかってきた電話により、市の担当職員が書類を誤って書き換えたことです。しかし、県が電話で何を指示したのかは一切記録無し。真相解明が遅れました。今後公金に関わる事務連絡は、メール等記録に残すよう強く求めました。

## 子どもたちを守る。支える。

### 子どもの施設に殺虫剤を使わないで！



#### 公共施設で進む総合防除

農薬や殺虫剤に含まれる有機リン系などの化学物質は、子どもたちの発達障害の原因ともいわれ、深刻な健康被害を起こしています。対抗策として、国も勧める「総合防除」があります。

総合防除とは、ネズミやゴキブリ等、事前に生息調査を行い、できるだけ薬剤を使わずトラップ等の物理的な防除を行うことです。



私は長年千葉県に総合防除を要望してきましたが、昨年1月、ようやく県庁と議会棟で始まりました。ところが、子どもたちの施設では、相変わらず農薬や殺虫剤が使われていたのです。

#### 児童相談所や養護施設

中央児相では、建物全体に有機リン系殺虫剤スミチオンを散布。この薬剤の注意書きには「噴霧した薬剤に、乳幼児が接触しないよう十分留意すること」とあり、それだけ危険だということです。他の児相も、大半が薬剤の定期散布を続けていました。

ゴキブリ退治のために室内で、燻蒸式や噴霧式の殺虫剤を使用している施設も4つありました。

薬剤散布が終わってもしばらくは、吸い込まないために避難する必要がありますが、児相や養護施設では建物の外への避難が難しく、子どもたちの健康被害が心配です。

### 子どもたちの施設こそ1日も早い総合防除の実施を求めました。

## 病室を教室に！ テレロボで誰でも授業に参加。

小児がん等で長期療養が必要になった場合、小学生や中学生の多くは病院内に設置された院内学級に転校していますが、高校生では、退学が1割、休学が6割に上っています。授業の単位が取れない、同級生と一緒に進級・卒業ができないなどハードルが多いのです。

そこで、高校ではリモート授業が認められるようになりました。愛知県では高校と病院の連携体制を作り、テレロボ（写真参照）を使ったリモート授業を進めています。千葉県でも当事者から訴えがあり、早急な対応で子どもたちの学ぶ権利を保障するよう求めました。



病室にいる生徒がタブレット端末を操作し、先生の板書に合わせて向きを変えます。



市民ネットワーク提出の意見書（佐倉市選出県議の賛否）	
漁連の合意なき汚染水海洋放出は中止を	「マイナ保険証」の義務付けはNO！
昨年4月、政府は、「関係者の理解なしにはいかなる処分も行わない」とする福島県漁連との文書約束を破り、汚染水海洋放出を決定。トリチウム等の放射性物質を含む汚染水を30年以上も海に流すことになり、海洋汚染だけでなく、漁業にも深刻な影響が出ます。海続きの千葉県漁連も徹底的に反対しており、知事も国に対し対策を強く求めています。	マイナンバーカードの普及にテコを入れるため、政府は健康保険証を原則廃止し、マイナンバーカードに統一する方針です。そのため、来年4月から医療機関と薬局に専用システム導入を義務付ける予定です。マイナ保険証になれば、常にマイナンバーカードを持ち歩くことになり、紛失や漏洩の危険性が高まります。個人情報への集約も進みます。
賛成（伊藤とし子） 反対（伊藤まさひろ、入江あき子）	賛成（伊藤とし子） 反対（伊藤まさひろ、入江あき子）

### 議会 報告会

7月31日(日)  
13:30～15:30  
会場 スペース結  
佐倉市王子台 1-26-7

県議 伊藤とし子  
市議 五十嵐ともみ  
川口えみ  
松島こずえ

お気軽に  
ぜひどうぞ！

